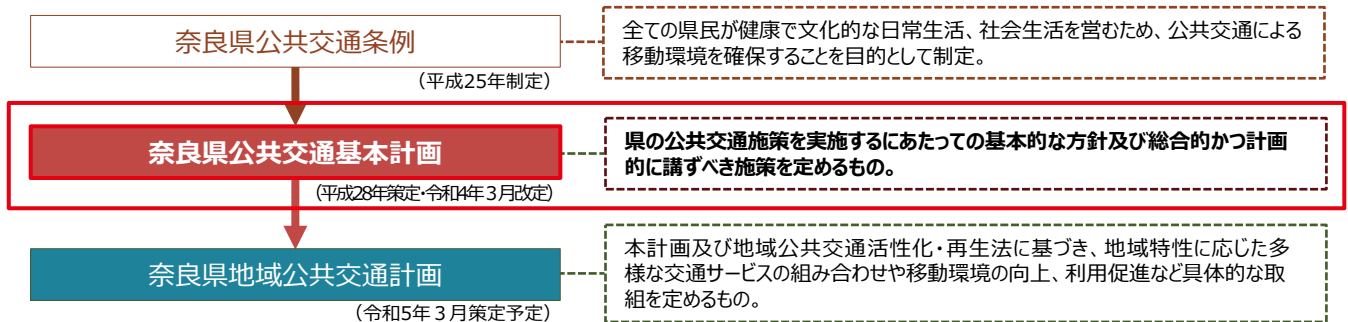


# 4 公共交通における取組

道路は、県民生活に密着したインフラとして、通勤・通学、買い物等、生活における多様な目的の移動の用に供する施設です。本県では、人口減少や少子高齢化の進行のほか、就業の態様を含む県民のライフスタイルの変化、インバウンド需要を含む観光客の増加などを受け、自家用車に過度に依存しない交通体系を構築することが重要であることから、自動車交通の円滑化のみならず、公共交通における以下の取組を進めています。

## (1) 奈良県公共交通基本計画

全ての県民が健康で文化的な日常生活、社会生活を営むため、公共交通による移動環境を確保することを目的とする「奈良県公共交通条例」(平成25年7月に制定)に基づき、県の公共交通に関する施策を総合的かつ計画的にするため、「奈良県公共交通基本計画」を平成28年3月に策定しており、県内公共交通の現状や課題、現計画に基づく取組の成果・効果検証、コロナ禍の影響・対応等を踏まえ、次の5年間の公共交通に関する基本方針を定めるべく、令和4年3月に改定しました。



### 計画の基本理念

- ・「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」ため、県民・来訪者の移動ニーズを支える県内公共交通とその拠点を実現する
- ・地域がより主体的に公共交通を維持・充実する取組に参画する
- ・持続可能な社会・地域づくりに貢献する公共交通を構築する

### 計画の推進施策

本計画の基本理念を実現するため、下記の4つの施策を推進します。

#### 推進施策1 県内公共交通の維持・充実に向けた取組

- (1) 地域がより主体的に公共交通の維持・充実を図る取組の強化
- (2) 地域の輸送資源や多様な輸送モードの活用



市内フィーダー交通  
〔五條市コミュニティバス〕



大宇陀南部ボランティア有償バス  
〔宇陀市〕

#### 推進施策2 公共交通に関わる空間の質向上

- (1) 地域の拠点としての駅・バス停等の質の向上
- (2) 誰もが使いやすい利用環境の整備



バス停の上屋整備  
〔甘樫丘〕



案内用タブレット設置イメージ  
〔道の駅宇陀路大宇陀〕

推進施策3及び4については、推進施策1及び2の実現を支える「横軸」として位置付ける

#### 推進施策3 多様な関係者による連携・協働

- (1) 「奈良モデル」に基づく、市町村・交通事業者・県民等との連携・協働
- (2) 公共交通を担う人材の確保・育成



地域の関係者による協議



市町村担当者向けの勉強会等の開催

#### 推進施策4 時代の変革に対応した公共交通の構築

- (1) デジタル技術の活用による移動手段の確保や利便性向上
- (2) 脱炭素社会の実現に向けた取組の推進



三郷町の自動運転車両の実証運行



E/Vバス  
〔環境省HPより〕

## (2) 主な取組事例

### 県内公共交通の維持・充実にに向けた取組

- ・地域の多様な関係者が参画する「エリア公共交通検討会議」において、地域の公共交通全体の維持・充実について協議し、運営の改善や利用促進を実施
- ・鉄道、タクシー、デマンド交通等、他の交通モードと連携し、地域に最適な交通体系の構築に向けた取組を支援
- ・南部東部を中心とする広域路線バス等に対し補助
- ・公共交通サービスが観光・福祉など関係分野にもたらす効果（クロスセクター効果）につき、試算を踏まえた奈良県版算出ツールの作成
- ・南部東部を中心とする広域路線バス等に対し補助
- ・地域住民や観光等の移動ニーズにきめ細かく対応する交通サービスの提供に向けた取組を支援
- ・貨客混載やサイクルトレイン等の複合的な交通サービス展開を支援



▲八木新宮特急バス 新系統「やまかぜ」  
(奈良交通より)

### バス停高機能化に併せた利用促進策等の実施

- ・バス停の高機能化に併せ、地域の公共・商業施設と連携した利用促進策等の取組を支援
- ・バス利用を促進するため、サイクルアンドバスライドを支援



▲バス停の改良とショッピングセンターの駐車場を活用したサイクルアンドバスライド（大安寺）

### バリアフリー化の一層の推進

- ・ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーの導入を支援
- ・鉄道駅の段差解消等のバリアフリー化を支援

### デジタル技術の活用によるサービス向上

- ・地図アプリ等でコミュニティバスの運行情報を経路検索できるようデータを公開
- ・自動運転やMaaSの導入を想定し、デジタル技術を活用した交通サービスの実証実験等を実施



▲ユニバーサルデザインタクシー車両



## 多様な交通サービスの導入のための勉強会を開催しています

昨今、地域における多様な移動ニーズに対応して運行・提供される自家用有償旅客運送、住民同士の助け合いによる運送、新たな移動手段（グリーンスローモビリティ等）が注目されています。こうした地域の輸送資源や多様な交通モードの活用に向けて、実証実験や、導入実績のある市町村担当者に事例紹介をいただきました。また、講師をお招きし、地域公共交通の現状や新しい交通モードが求められている背景、新たな交通モードとして「グリーンスローモビリティ」の活用事例紹介等を講演いただきました。



▲市町村担当者向けのセミナー



▲地元住民が中心となったコミュニティバス「たけまる号」（生駒市）